

東リ株式会社



2026年3月期 決算補足説明資料

2026年5月8日



2026年3月期 決算概要

当社グループを取り巻く事業環境(2026年3月期)

国内建設市場動向

建築着工統計	新築(面積) (前年比 ※1)	リフォーム リニューアル(金額) (前年比 ※2)
住宅	▲5.8%	+16.3%
非住宅	▲7.0%	+23.3%
事務所	▲15.2%	+21.8%
店舗・宿泊施設	▲1.6%	+19.0%
学校	+6.3%	+20.8%
医療・福祉施設	▲11.0%	+32.6%

Point

- ▶ 建設コストの高止まり等を背景に、住宅・非住宅の新設着工床面積は減少。一方、オフィスや宿泊施設向けを中心に、リニューアル市場は堅調に推移。
- ▶ 新築が低調な一方、職場環境の改善志向は高く、リニューアルが活況。
- ▶ インバウンド需要に対応した宿泊向けリニューアルが好調に推移。
- ▶ 新築着工面積がわずかに回復。
- ▶ 新築着工面積の減少傾向が続く。

出典:国土交通省「建築着工統計調査」及び「建築物リフォーム・リニューアル調査」

※1 当社事業との関連指標として、住宅は7ヶ月、非住宅は9-12ヶ月後方ヘシフトさせた数値

※2 2025年4月~2025年12月累計の前年比

その他事業環境

さまざまな社会情勢を背景とした物価上昇

地政学リスクに端を発する経済活動の混乱

建設コストの高止まりや金利の上昇

Point

- ▶ 物価上昇圧力は依然強く、家計を圧迫。
- ▶ 原油調達環境の悪化など、2月末以降の世界経済は大きく混乱。
- ▶ 人手不足等も相まって、建設投資意欲に影響。

2026年3月期 連結決算概要

(単位:百万円 ※単位未満切り捨て)

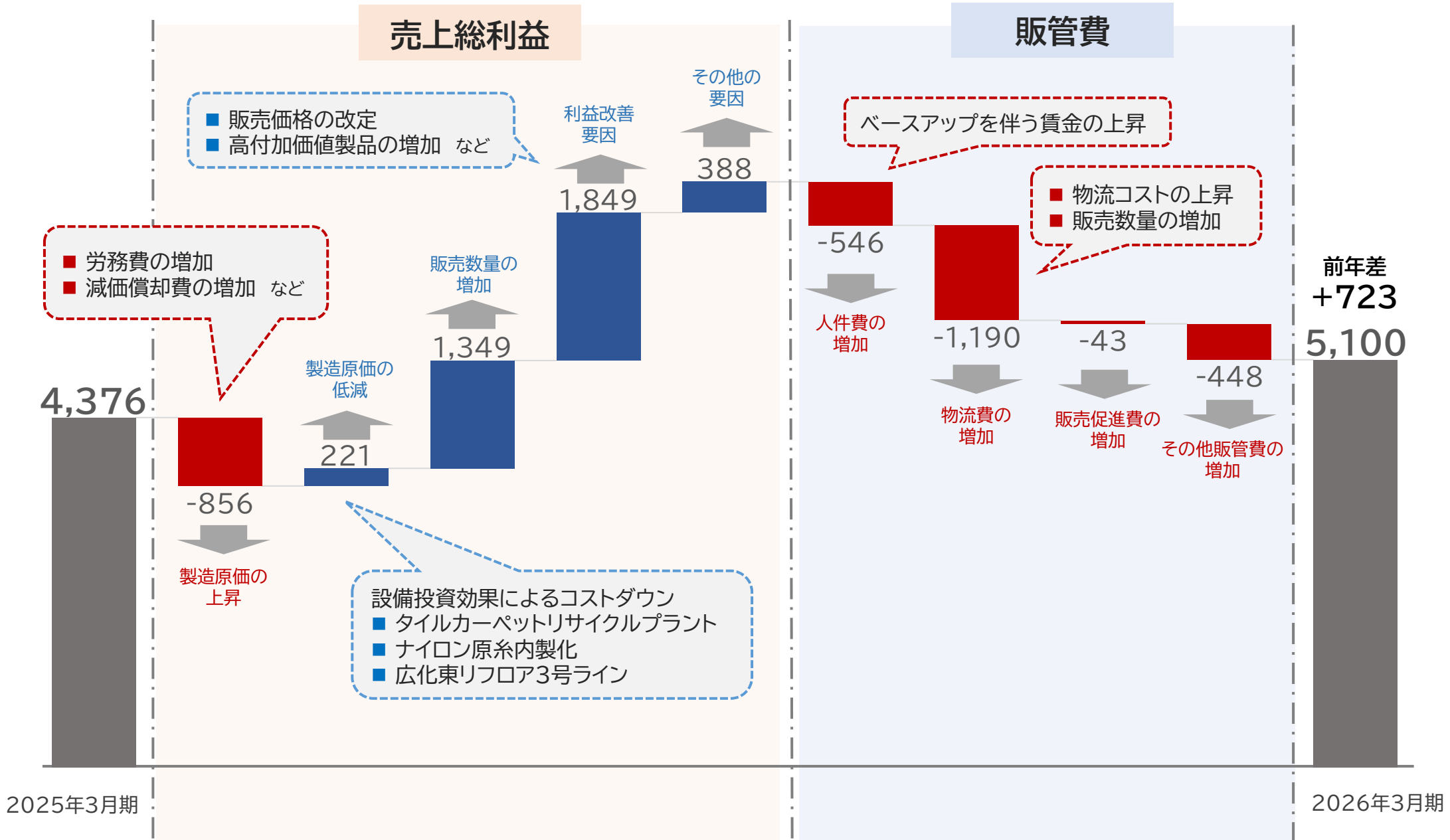
	2025年3月期	2026年3月期		
	実績	実績	前期比(%)	前期差
売上高	105,709	112,337	+ 6.3	+ 6,628
売上総利益 (売上高比率)	30,659 (29.0%)	33,610 (29.9%)	+ 9.6	+ 2,951
販売費及び一般管理費 (売上高比率)	26,282 (24.9%)	28,510 (25.4%)	+ 8.5	+ 2,227
営業利益 (売上高比率)	4,376 (4.1%)	5,100 (4.5%)	+ 16.5	+ 723
経常利益 (売上高比率)	4,665 (4.4%)	5,733 (5.1%)	+ 22.9	+ 1,068
親会社株主に帰属する当期純利益 (売上高比率)	3,507 (3.3%)	4,459 (4.0%)	+ 27.1	+ 952

Point

- 当期並びに前期発売の新製品を中心とする販促活動に注力し、ビニル系床材や壁装材などの販売数量が伸長。
- 大型設備投資に伴う減価償却費の上昇に加え、物流コスト及び人件費などが増加。
- 増収効果並びに原価低減活動に加え、一部製品の販売価格改定が進展したことで、利益は前年を上回る。

連結営業利益 増減要因

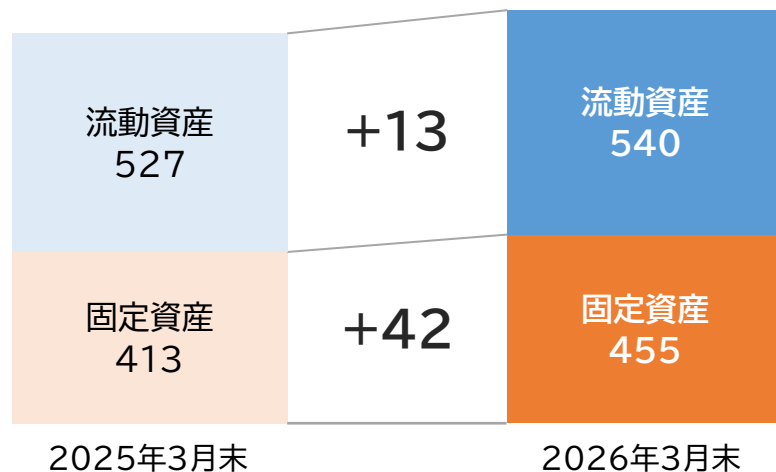
(単位:百万円 ※単位未満切り捨て)



連結貸借対照表

資産

(単位: 億円 ※単位未満切り捨て)



Point

<流動資産>

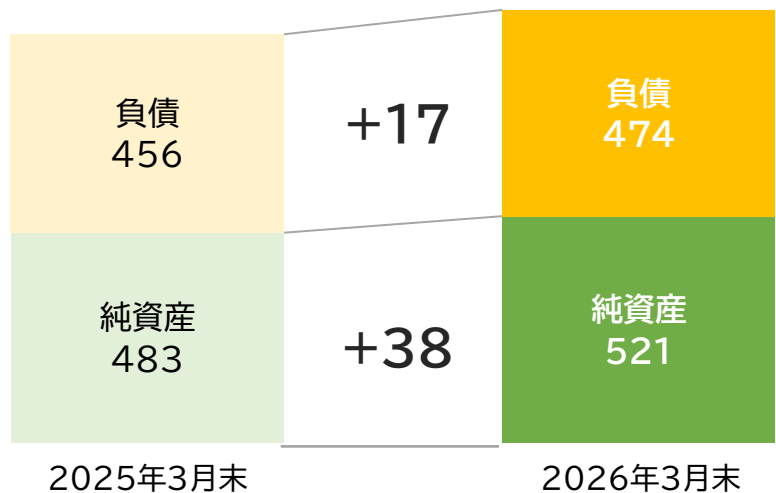
- 現金及び預金の増加 +18
- 売掛債権の減少 ▲7 等

<固定資産>

- 有形固定資産の増加 +18 等

負債／純資産

(単位: 億円 ※単位未満切り捨て)



Point

<負債>

- 借入金の増加 +4
- 未払法人税等の増加 +7 等

<純資産>

- 利益剰余金の増加 +29 等

2026年3月期 事業セグメント別業績のポイント

インテリア事業

売上高

107,231百万円
前年比(+6.5%)

セグメント
利益

5,156百万円
前年比(+17.8%)

- ビニル系床材と壁装材を中心に販売数量が伸長し、売上高は前年を大きく上回る。
- 「GA-3600 サスティブバック」(全点自社内製系使用)や、特殊印刷技法を用いた不燃化粧仕上げ材「リアルデコ」などの独自商品を発売。
- 増収効果並びに製造原価の低減、一部製品の上代価格改定による販売価格の底上げが進展し、セグメント利益は前年を上回る。

グローバル事業

売上高

2,321百万円
前年比(▲5.8%)

セグメント
利益

▲275百万円
前年同期
(セグメント利益▲218百万円)

- 中国市場では、不動産不況を背景に厳しい事業環境の下、販売が伸び悩む。
- 米国市場において建設投資が伸び悩む中、米国現地法人の「TOLI North America」では、エリア別代理店施策や現地在庫戦略を推進。
- 売上高の減少に加え、輸送コストの上昇などにより、利益は前年を下回る。

建材その他事業

売上高

4,993百万円
前年比(+1.8%)

セグメント
利益

219百万円
前年比(▲0.1%)

- 浴室・浴場向けビニル床シート「バスナシリーズ」が好調に推移。
- プールサイド・半屋外用途向けの防滑性ビニル床シート「NS遮熱ガーデン」を発売。
- 卓球「Tリーグ」とのオフィシャルフロアマットパートナー契約に続き、カーリング練習用シート「スウィバリーシート」を発売するなど、新分野における製品開発や販売チャネルの開拓が進展。

※セグメント間の取引を含めて表示



2027年3月期 業績見通し

2027年3月期 連結業績見通し

(単位:百万円 ※単位未満切り捨て)

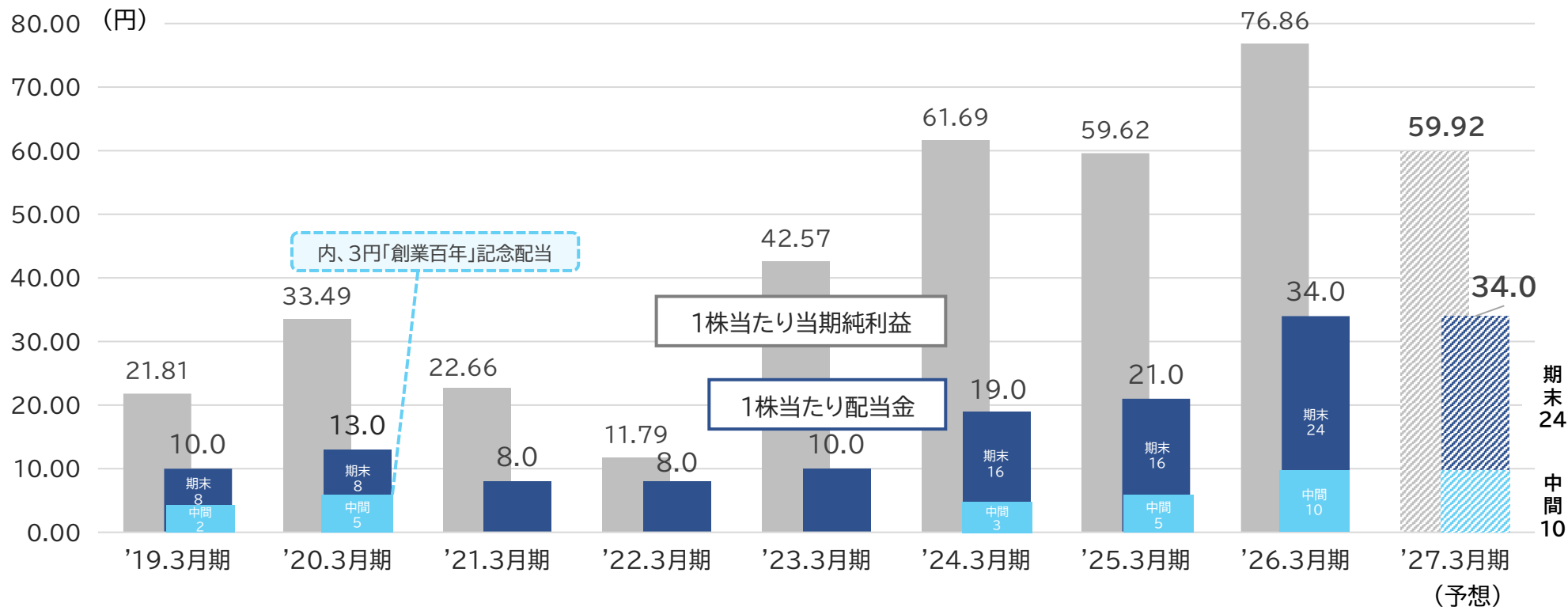
	2026年3月期		2027年3月期			
	上期 (4-9月)	通期	上期(4-9月)		通期	
				前期比(%)		前期比(%)
売上高	52,292	112,337	52,000	▲ 0.6	112,000	▲ 0.3
営業利益	1,399	5,100	700	▲ 50.0	4,100	▲ 19.6
経常利益	1,710	5,733	900	▲ 47.4	4,500	▲ 21.5
親会社株主に帰属する 中間期／当期純利益	1,090	4,459	700	▲ 35.8	3,400	▲ 23.8

Point

- 地政学リスクの高まりによる原材料調達環境の悪化が懸念事項であり、その対応が重要な課題。
- きめ細かな販促活動によるシェア拡大を目指す一方、不安定な経済社会環境を鑑み、売上高は前年並みを想定。
- 4月以降、原材料価格は急騰しており、収益環境は悪化する見通し。急激な事業環境の変化に対応すべく、販売価格の改定(7月27日受注分より)を予定するも、後追いの改定となり、当期は大幅な減益を見込む。

配当の状況(連結ベース)

配当金推移(円)



- 中期経営計画「SHINKA Plus ONE 2.0」期間中(2026年3月期～2028年3月期)の株主配当については、連結配当性向50%、又はDOE3.5%を目安に安定的な配当を継続的に実施することとし、年間配当金は19円を下限とする方針。
- 2027年3月期の1株当たり年間配当金は、1株当たり34円を予定。

将来見通し等に関する注意事項



IRに関する
お問い合わせ先

東リ株式会社
経営企画部

e-mail

toli_ir@toli.co.jp

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
本資料における、将来予想に関する記述につきましては、当社の目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
また、業界動向や外部環境認識等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性や完全性を保証するものではありません。
本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。